



浜家連 ニュース9月号

第253号

2021年9月1日発行

発行人 特定非営利活動法人 横浜市精神障害者家族連合会
事務局 〒222-0035 横浜市港北区烏山町 1752 番地
障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール3階
電話 045(548)4816・FAX 045(548)4836
URL <http://hamakaren.jp/>

ETV特集 ドキュメント

「精神病院×新型コロナ」を観て

副理事長 稲垣 宇一郎

7月31日、TV番組表の中でNHK、ETV特集ドキュメント「精神病院×新型コロナ」が目にとまりチャンネルを合わせました。

どのような番組であったかを、以下ご紹介いたします。

「東京都中から精神疾患のあるコロナ陽性患者を受け入れている都立松沢病院のコロナ専門病棟。次々とクラスターが発生し、精神疾患があるが故に一般の病院での受け入れが困難とされた人たちが運びこまれる。ここにカメラを据えると病院にしか居場所のない患者、受入を拒む家族、ひっ迫する医療体制の中で葛藤する医療者たち、行き届かない行政の指導の実態が見えてきた。コロナがあぶり出した日本の精神医療その実態の記録」です。

〈NHK番組紹介文より引用〉

番組では都立松沢病院で陣頭指揮をとる院長の齋藤正彦先生が多くの場面で登場致しました。

齋藤先生は昨年9月18日開催予定の浜家連研修会で「身体拘束最小化の取組」のテーマでご講演を頂く事が決定しておりました。しかし、新型コロナ感染症拡大で残念ながら中止となりました事をご存知の方も多いと存じます。

その様なご縁がありましたので、齋藤院長が番組中で発せられる言葉が特に記憶に残りました。その中で「コロナは我々が見て見ぬふりをしようと思っていた問題を明らかにした。」「世の中に何か起きたときにひずみは必ず弱い人の所に行く」「コロナ感染で精神障害がある人の治療は障害が無い

人が受けている治療より明らかに劣っている」と言っておられました。

この番組で、今回の新型コロナ感染症に対して、精神科特例下の病院（一般の病院に比べ、医師1/3・看護師2/3で良い）がいかに脆弱であるかを複数のクラスターが発生したX病院・Y病院の対応で見事になりました。

劣悪な医療環境にある病院から送り込まれるコロナに感染した患者さんへの対応をする中で、齋藤院長はこの様な事も仰っておりました。「患者さんを退院させるときに一番の抵抗勢力は社会だからね。」「あの奥に患者さんを入れておいてください・・・の声」「病院の精神医療というのはそういう構造を持っていると思います。」

また、図らずも劣悪な医療環境が記録されたX・Y病院に対応した松沢病院の医療関係者がつぶやいていた「このような病院が無くなったならあの人たちの居場所は本当になくなるって思う」という当惑しながらの言葉が齋藤院長の言葉と合わせて胸に突き刺さりました。

さて、第4期 横浜市障害者プランが策定されました。期間は令和3年度から令和8年度の6年間です。

その基本目標は「障害のある人もない人も、誰もが人格と個性を尊重し合いながら、地域共生社会の一員として、自らの意思により自分らしく生きることができるよう目指す。」と謳っております。

現実と目標の差は大変大きいように思われます。そして、コロナがあぶり出した問題は



どれ一つとっても一筋縄では解決できそう
もない難問と受け取りました。
それでも、つい言葉にでる「年だから」な

どと弱音を吐かないでもうひと頑張りしな
ければと思いました。

[注記]番組作成時には齋藤正彦先生は院長の職にありましたが、本年3月に退任され、現在は同病院の医師として現場復帰されておられます。

浜家連の動き



横浜市及び横浜市会各会派へ要望書の提出、懇談会が行なわれています。8月号に続いて報告が届いています。

立憲民主党・国民フォーラム横浜市会議員団との懇談会に出席して

みどり会 高塚 清

6月30日10時半より、横浜市役所議会棟3階多目的室で行われた“令和4年度予算編成に向けた精神保健福祉施策要望書提出及び懇談会”に参加しました。



当日は、宮川理事長、大羽副理事長、稲垣副理事長、井汲副理事長、高橋理事、中居事務局長と私の7名が開始時間の約30分前に集合しました。内容説明について打合せで、全体説明を大羽副理事長が行い、その後他のメンバーが具体的な補足説明を行うことになりました。

議員団が数グループとの懇談会をセットしていた関係で、会は予定時間より数分遅れで始まりました。

立憲・国民フォーラム所属の市会議員20名の出席で、冒頭大山団長（港北区選出）より、「少しでも充実した取り組みができるように毎年実施していて、現状をより把握できる会なので大切にしたい」との挨拶がありました。

続いて、宮川理事長が「コロナ禍の影響で昨年行えなかったが、今日開催できて良かった。精神障害について理解を深めていただいて大変ありがたい。今後とも充実した会にしていきたい」との発言の後、浜家連側の参加メンバーの紹介をされました。

大羽副理事長が要望書の内容を要望書記載順に、重点要望事項中心に説明されました。

- 医療費助成の拡充について
毎回お願いしているが、精神障害2級への拡充
- 精神障害者が安心して暮らせる街づくりについて
精神障害に対応した地域包括ケアシステムの構築
- 安心して受けられる医療について
患者が安心できる人権に配慮した医療現場の構築

個別意見として

井汲副理事長が、「早期に包括ケアシステムを構築して運用してほしい。医療、支援など個別制度は充実しているが、連携が不十分なので、デメリットに成りかねない。また、グループホームに対する住民との軋轢が生じているところもあるので、啓発に力を入れてほしい。」と発言されました。

高橋理事の「社会的弱者に対する立憲民主党の考え方を教えてほしい。」との発言に対して、大山団長が「“誰もが支えあえる社会を目指す” のが基本的考え。」と回答されました。

宮川理事長が「家庭で一番困るのは、急な病状の変化に対応できないこと。早期に各区でアウトリーチ事業を立ち上げてほしい。」との発言に対して、森議員（保土ヶ谷区選出）が、「区独自予算で1チームの事業を立ち上げたが、要望件数が多く対応に苦慮しているようだ。利用者側の意見を聞かせてほしい。」との発言がありました。大羽副理事長が「現在、訪問看護師・MSWの2名で対応しているが、対象者2名のフォローで精いっぱい。より多くの関連職種のチーム構成が必要。」との発言に対し、森議員が「スタートしたばかりであり、手探り状態、区の担当者と協議したい。成果を出して市全体に広げたい。」との発言がありました。

麓（ふもと）議員（泉区選出）より「対応は専門家でなければ難しいが、地域で生活することは重要で、会派として対応したい」、田中議員（青葉区選出）より「日中のデイケアに通う従来型のほか、日中も支援できるものができ、グループホームも多様化しているようだ。」との発言がありました。

私は「福祉保健センターのMSW増員」をお願いしました。

初めて、市会議員団との懇談会に参加して、必要な施策に関して声を上げることの重要性を深く感じました。また、新市庁舎の規模、システムティックな仕様に驚きました。

日本共産党県議会議員団への要望

若杉会 西川 進

7月30日（金）に共産党県議会議員団と浜家連との団体懇談会が行われました。共産党からは君島、上野、石田、大山の各議員が、浜家連からは宮川理事長をはじめ7名が参加しました。

浜家連からの重点要望として、精神障害者医療費助成の拡充、自治体による医療費助成の格差解消と、精神障害者にも対応し

た地域包括ケアシステムの構築推進について説明をしました。議員からは県からの回答や新たに今年度開始予定の手帳保持者の大規模な実態調査の計画の説明がありました。この大規模調査結果は来年度以降の精神障害者の福祉政策の資料となるもので今後も注視が必要であると思います。

日本共産党県議会議員団への要望事項

■障害者医療費助成の拡充について

1. 重度障害者医療費助成制度の拡充
2. 自治体による医療費助成の格差解消

■精神障害者が安心して暮らせる街づくりについて

3. 精神包括ケアシステムの構築推進
4. 小学校での啓発事業の推進
5. 精神障害理解と人権に関する教育を

家族学習会実行委員会より

浜家連2021年度の家族学習会の取り組みについて

家族学習会実行委員会 井汲悦子

家族学習会実行委員会では6月11日は書面で、7月9日と8月13日には対面で実行委員会を開催して今年度の取り組みについて話し合いました。例年7月に開催しておりました担当者研修会は、コロナ感染拡大やワクチン接種の状況を考慮して、9月6日（月）に変更しました。すでに、

理事会や会報ホームページでお知らせし受講者を募集中です。ご希望が少人数でも来年度に向けて開催する予定です。

また、2022年1月23日から2月27日にかけて、家族学習会実行委員会が中心になって家族学習会を横浜うポールで開催予定です。募集は11月から開始します。昨年度はコロナ感染拡大のため開始直前で中止にせざるを得ませんでした。代わりに家族学習会通信を発行しましたところ、参加予定だった方から来年は是非開催をしてほしいという要望をいただきました。

各単会での家族学習会は昨年は開催できませんでしたので、今年こそはとお声かけして参りましたが、「実施する」という声は上がりませんでした。コロナの感染拡大で例会を開くのも大変という現状が一番大きな理由と思われるが、実施する単会の会員の高齢化に伴い、開催するだけの体力、気力の減退、当事者がある程度安定し発症間もない家族の参考になりにくいなどの理由があげられました。また若い会員が少なく、若い会員に引き継げないことも開催に消極的になってしまう一因と思われます。家族学習会を開くには会員の熱意と協力が不可欠です。家族学習会の参加者からも担当者からも「参加してよかった」「やってよかった」という感想が必ず聞かれます。この素晴らしいプログラムをどうしたら続けられるでしょうか。

今年度の担当者研修会を受講される方やある単会からは、「今年は無理だが、来年は実施したい」「一単会では無理でも他の単会と一緒になら」「担当者、参加者の人数を縮小してやってみたい」など前向きなお声も聞かれます。みんなで工夫して続けていける方法を探っていきたいと思います。ご協力よろしく願いいたします。

§ イベント情報 §

◆第2回 市民メンタルヘルス講座◆

大人のひきこもり

～安心して生きていける社会にするために～

日時 10月 9日(土) 13:30～16:00(開場 13:00)

場所 横浜市健康福祉総合センター

講師 池上 正樹 氏 (KHJ 全国ひきこもり家族会連合会)

定員 : 250名(先着順) 入場無料

事前申し込み必要 (FAX 045-548-4816・メール ysskr@bloom.ocn.ne.jp)

◆第3回 市民メンタルヘルス講座◆

当事者・家族・医療者がお互いに理解するために

～現状と未来への展望～

日時 10月23日(土) 13:30～16:00(開場 13:00)

場所 横浜市健康福祉総合センター

講師 夏苺 郁子 氏 (やきつべの径診療所・児童精神科医)

定員 : 250名(先着順) 入場無料

事前申し込み必要 (FAX 045-548-4816・メール ysskr@bloom.ocn.ne.jp)

※講演はリモートで行います。(個人への配信は行いません)



【編集後記】コロナウィルス感染者急増のニュースを見るたび、市民メンタルヘルスなどの開催に影響はないかと心配になってしまいます。ここは右往左往することなく、状況を見ながら冷静に対処できればと思います。(事務局 中居)